編輯室內外

迫り來る歳の瀬に思ひを過去に馳せて見る。昭和十二年十一月二十日は支那事變下に於て最高統帥機關として大本營が設置せられたので此に五年更に十二月八日は大東亜戰に擴大されて大詔が渙發せられて一年是を思ひ彼を考へて感無量なるものがある。赤十字社條例を公布せられたが明治三十四年十二月三日、王政復古の詔勅は慶應三年十二月九日、赤穗義士大石良雄以下四十六人が主君の仇を報じたのが元祿十五年十二月十四日、保安條例の發布が明治二十年十二月二十六日、華府條約廢棄の通告が昭和九年十二月二十九日で此等の出來事を思ふにつけても亦感慨無量なものがある。

○東條首相は官吏を誡めて曰く「近來官吏の中に私慾に迷ひ操守を忘れて官紀を紊し爲に法綱に觸るるが如き者あるを見る事は最も悲しむ所である」と述べ戰時下官吏の職責の重大性を强調して國民の信賴を要する事今日より大なるはないと寔に然り、然れど倘免かれて恥を知らざる官吏あるを思へば吏道を沒却し率先垂範すべき立場にありながら却つて世の指彈を受くるが如き何んと謂ふべきか吏員の刷新には魂の入換が緊要である。

○元厚生大臣で現に産業設備營團副總裁の廣瀨久忠氏は中二階より意味ありげな言を發せられた。曰く役人は形式病患者になり易いが民間人は速效病患者に陥る怖れがある。役人は訓示癖に陥り易いが民間人は面從腹背病に陥り易い。役人は朦朧性の疾患に罹り易いが民間人は偏狹性の疾患に罹り易い。往々官は民を疑ひ過ぎ、民は官を恐れ遂に憎むが如き傾向にまで發展することが見受けられる、實に時局柄遺憾の極みである。感情は捨てよう、國の爲に理解し合ふ迄話し合つたらどんなものか？　と言々肺腑をつらぬく思ひがする。廣瀨先生の健在を祈る。

○道の最も尊しとするところのものは君臣の道父子の道である。こゝにはすでに君は永遠に君にましまして臣は永遠に臣である。父には父たるの道があり子には子たるの道がある。子は親に仕へて喜んで死にゆくごとく、親は子の爲に死にゆくのでなければならぬ。死も亦愛の表現での極まる所である。淸明の道といひ、誠の道といふ此處にあるべからず心掛くべき第一義は此事であるとあふ。

○大町桂月曰く人間の汗によつて、田は耕され、金銀は掘り出され、海の幸も得られ、山幸も得らる、汗のある處、人間の事業あり。汗のなき處、唯享樂あるのみ、墮落あるのみ、汗の價値、今更喋々するまでもなし、唯日々に汗を出す工夫せよ。と勤勞奉仕、生産の擴充夫れ汗の賜物か、强大は下に處り、柔弱は上に處ると何の意ぞや。自ら見はさず故に明かなり、自ら是とせず故に彰はる。自ら伐らず故に切なり、自ら矜らず故に長し。夫れ惟だ爭はず故に天下能く之れと爭ふなし。と是れも亦其の意味深長なるを思ふ。

○日本歷史をひもとけば天佑神助の加護絕えず其の跡を印せらるゝを見る。併し油斷大敵である。自ら護り、自ら禦ぎ、自ら進み、自ら戰つて敵を殲滅すべきである。必勝不敗の信念に燃えて國民の總力を擧げて戰ひぬく所に天佑神助がある。我利を計り私益を慮り他を援くるが如くして實は己を益するが如きに於ては天佑何處にかある、神助加ふるの餘地なし、官民と云ふは國民の皆な悉く三省すべき所である。

○印度の食糧飢饉は最近急を告げ、餓死するもの續出してゐる、パンジャブ州、聯合州、ベンガル州等の農產物生產地帶は先般來小麥、大麥、米などの州外移出を禁止してゐるため非生產地帶の不安はさらに拍車をかけられてゐる。英當局は今回の飢饉と餓死に對しては何等關心を持たず一般民衆から怨嗟の的となつてゐると傳へられてゐる。英國非人道的なことは今更でない印度人の叛亂も其の原因此處に存す。噫

（一一、二〇、洸）

（停）定價 一部 金五十錢　一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區霞關一丁目內務省內
發行所　社團法人　道路改良會
電話銀座(57)〇四二七　振替口座番號東京一九〇一六

東京市赤坂區氷川町一七
發行者 編輯者　平井良成

東京市小石川區諏訪町五六
印刷所（東東二〇）　株式會社　常磐印刷所

印刷者　奈良直一

日本出版文化協會會員番號二二〇〇四五